

「とりでこども未来会議2026」として、市内7つの高校から32名の高校生が参加しました。従来の、議論し、模造紙に付箋を貼り、意見をまとめるWSではなく、「つくるをほぐす(英治出版)」の著者であり、「造形対話」を提唱する山内佑輔氏のファシリテートによる、形式を決め切らない非常に和気あいあいとした楽しいWSとなりました。まずは「あなたにとって本とは何か?」というテーマで一人ひとりが考えた後、会場に用意された200冊の本を使って、広い会場の中を行ったり来たりしながら、実際に本に触れ、並べ、その時の気持ちに合ったものを偶発的に手に取り、読書をして、本の一節をもとに話し合ったり、本の魅せ方を自分たちなりにアレンジしたりなど、これまでと違う身体性を伴う本との接し方を体験したのち、「私たちにとって本とは何か?」という意見を出し合いました。それにより、新たな本の見え方とともに「図書館にとっての本とは?」を確認する会となりました。

ワークの様子

本を使ったワークを通じて、一人ひとりが自分の考えを言葉にし、お互いに伝え合う対話の場を設けました。当日の様子をご紹介します。

①あなたにとって本とは何か?

まずは1人ひとりが「あなたにとって本とは何か?」という問いへの回答を紙に書き出しました。本の魅力を捉えた意見もあれば、本との距離を感じていることが伝わる率直な意見も。回答はすべて壁に貼り出し、時折笑いも起こる和やかな雰囲気のおかげ、お互いの考えを伝え合いました。



貼りだされたキーワードの一部

- 必要不可欠
- おもしろい
- 人生を豊かにする
- 想像の世界。後世に伝えるためのもの。
- 学習ができる
- 学び、新しい価値観、感情の受け取り
- 無くてもいいもの
- めっちゃきらい!
- 妥協
- たいくつ
- たまに読みたくなると読むけど読めない など



②今日の気分の色を選ぶ

空気がほぐれてきたところで、自分の感覚を言語化するワークを重ねます。会場に並べられた色とりどりの紙のなかから今の気分合う色を選び、その理由について伝え合いました。



③本を並べる

かごに入った状態の取手図書館の本200冊を、全員で協力して並べていきました。作業を進めるなかで、本を手にとって表紙を眺めたり、自分たちでテーマを決めて大まかに分類したりする様子が見られました。



開催日時

2026年7月28日(火)
13:30-16:30

講師

学習環境デザイナー/新渡戸文化学園 VIVISTOP
NITOBE コミュニティクリエイティブディレクター/東京造形大学特任准教授
山内佑輔氏

参加人数

32名

場所

福祉交流センター
多目的ホール



大学職員、公立小学校の図工専科教員を経て、新渡戸文化学園へ着任。子どもたちがやりたいと思う気持ちのままにつくったり試したりできる、偶然性に開かれた空間「VIVISTOP」を新渡戸文化学園内に開設し、その運営を担当。2025 年から東京造形大学特任准教授に就任。「造形とコミュニケーション」を軸に、企業・行政と協働しながら、多世代が創造的に関わる場の設計・運営を行い、対話から新しい価値を共に生み出す。

④色から本と出会い、読む

ここで、②で選んだ色紙が再登場。色紙の色が使われている本や、色の印象に近いと思う本を一人1冊選びました。はじめて手に取る本や、興味を持ったことのないジャンルの本を選ぶ生徒も。選んだ理由を共有したあとは、数分間の読書タイムを設けました。



⑤気になったキーワードを見つける

本を読んで気になったキーワードを一人1枚紙に書き出し、その理由をグループで共有しました。その後、キーワードと本を机に並べ、全員で鑑賞。キーワードをきっかけに、気になった本を自然と手に取って内容を確認したり、そこから参加者同士で本について言葉を交わしたりと、本を介した対話が自然に生まれていました。



キーワードの一部

- たいた数だけ、不幸が遠のきます。
- だれもこれがへびだなんて気づかなかったでしょう?
- 自我=世界 一元論
- わたしたちも大きくなる ぱんと いっしょに
- 涙が出るドライアイもある
- 『枕草子』の内容はめちゃくちゃイジワル
- による
- terrible



最後に、この2時間のワークで感じたことをみんなでき言葉化してみましょう!

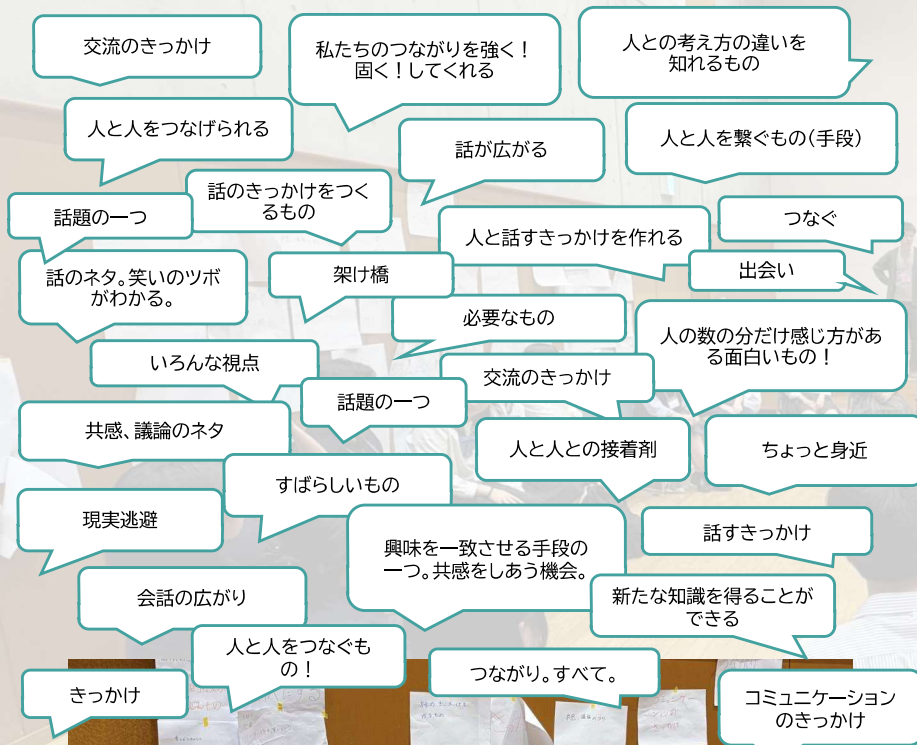


次のページで、ワーク後の対話の様子を掲載しています。

ワークを終えて

ワーク後、全員で円になり、この日の体験を通じて感じたことや考えたことを言語化しました。

●本が人と人の間にあったとき、私たちにとって本とは何か？



●図書館にとっての本の役割とは？

- 新体験ができる！人との交流が深まる
- 好きなジャンルと一緒で、仲が深まる。人と人とのつながりができる。語彙力深まる。
- 五感の補助
- 味がある
- 新たな世界、人との交流の入り口
- 話題、交流の場
- 人と人をつなぐことで、繋がりによって新しい世界を知れる
- 人との繋がりの場
- 交流の源
- 自分なりの考えを生み出せる。インターネットとかだとほかの人の考えが混じってると「場所」があるから頭に残ると思う
- 新しい体験をさせてくれる
- 新しい世界の始まり
- 新しいジャンル、世界、知識と出会う。気分を変える。
- 新たな考えを知る
- コミュニケーションを手助けする存在
- 意見を出さずきかけ。理解を深める。落ち着かせる。
- 他者との交流、自分の知識を広げられる場所
- その本に関する感想を言い合い、新しい人との仲を新しく作る役割。誰かとの交流の基。
- 人と人をつなぐコミュニケーションの架け橋
- 一人で学びみんなで共有する
- ただ知識を得るだけじゃなくて、人や物語と触れ合うことを助ける役割
- 自分の考えを深めるもの 同じジャンルが好きな人をつなげるもの
- 自分と向き合う
- 学習。コミュニケーション。
- インターネットだと、サイトによって内容が変わったり、AIが勝手に不確実な情報を提示してきたりするので、「本」という(ほぼ)確実な情報を提示してくれる媒体の方が信用できるし、人との繋がりのもとにもなっている。
- 知識を交流させるもの
- 正確性
- 紙に触れる機会

●まとめ

- 「あなたにとって本とは何か？」という初めの問いかけに対しては、「必要不可欠」「おもしろい」といった意見もあるものの「めっちゃさらい！」「妥協」「たいくつ」「無くてもいいもの」などの否定的な意見も多く見られ、デジタルネイティブ世代の率直な意見を知ることになりました。
- ワークを終えた結果、「私たちにとって本とは何か？」という問いかけには「交流のきっかけ」「人と人をつなげられる」「私たちのつながりを強く！固く！してくれる」といったコミュニケーションの真ん中に本があるといった、それまで気づかなかった新たな価値をほぼ全員が実感しました。
- その結果、「図書館にとっての本の役割とは？」に対しては「新たな人とのつながり」「新たな世界、体験への広がり」といった意見が多く見られ、本を所蔵・配架するだけではなく、本から広がるコミュニケーションや新たな体験の場としての工夫をソフト面、ハード面の双方から新図書館で検討していく必要があることが分かりました。



テーマ

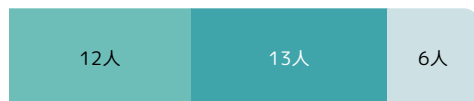
本の可能性を探る

高校生の声から振り返る

「とりでこども未来会議2026」に参加をいただいた高校生の皆さんにアンケートを実施しました。

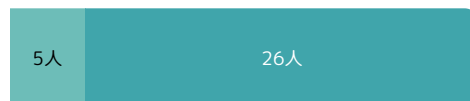
Q1. 学年を教えてください。

● 高校1年生 ● 高校2年生 ● 高校3年生



Q2. お住まいは市内ですか？市外ですか？

● 市内 ● 市外



Q3. 今回の「とりでこども未来会議」に参加してのご感想をお聞かせください。

参加して良かった

96.8%

高校生の声

参加して良かった理由（自由記述より）

たくさんの意見を聞いて自分の知らない意見や新しい気づきがあったので、参加して良かったです。

自分の価値観も少し変化したので、参加して良かったです。

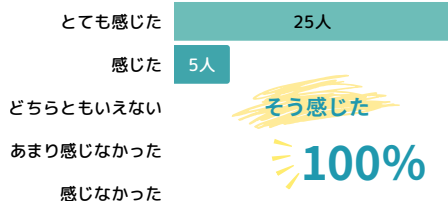
意見を出しやすい空気だったので良かったです。

「どんな意見でも一回受け入れる」の姿勢があったおかげでとても話しやすかったです。

リラックスした雰囲気
で楽しかった！



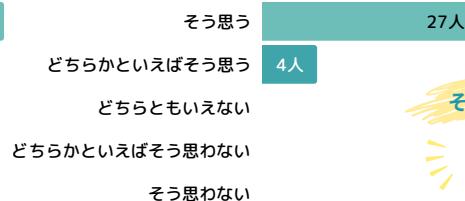
Q4. 自分の意見や考えを聴いてもらえていたと感じましたか？



そう感じた

100%

Q5. 意見やアイデアを安心して発言できる雰囲気があったと思いますか？



そう思う

100%

高校生の声を、まちづくりへ。

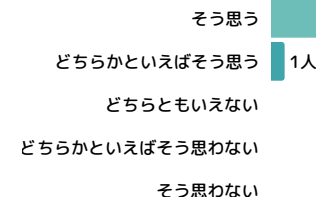
「とりでこども未来会議2026」で自分の考えを伝え、さまざまな人の意見にふれた経験が、これからのまちづくりへの関心や「また参加したい」という気持ちにつながっています。



Q6. こどもの意見がまちづくりに活かされることは大切だと思いますか？

そう思う

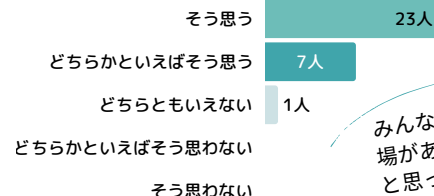
100%



Q7. 今後も市が行うまちづくりに関する取組に参加したいと思いますか？

参加したい

96.8%



みんなが尊重して意見を言い合う
場があるのは市の発展につながる
と思った！

Q8. 取手駅西口駅前に整備を予定している図書館を核とした複合公共施設について、どんな施設だったら利用したいと思いますか？（自由記述より）

静かに集中できる

- 静かな自習室
- 一人ひとりの個別机
- 静かな読書スペース
- 学習や本に集中できる場

人と交流ができる

- 同じ趣味を持った人同士が繋がる施設
- 地域の人との交流の場
- 老若男女集まる賑わう場所
- 本を読むことを目的にするのではなく、コミュニケーションの中に本がある空間

便利に使える

- Wi-Fi、インターネット環境
- 電源、コンセント
- 飲食可能なスペース
- 広い駐車場

本+アルファの楽しみ

- 動植物や自然を感じられる
- こどもの遊び場がある
- 本を読んで感じたことを書けるコーナーがある
- 楽器を置く
- イベントを通じた交流の仕掛け

くつろげる・居心地がいい

- ビーズクッションなど、ゆったりくつろげる家具
- 飲み物や食べ物が買える場所、カフェ
- 景色がよく、リラックスできる空間
- 友達と一緒に座れるソファ
- 誰でも気軽に行ける、入りやすい雰囲気

Q9. 今回の取組への感想や、市に対してのご意見等ございましたら、自由にご記入ください（一部抜粋）。

地域の人とも交流できる機会
をつくってほしいです。

価値観の違う人との交
流が新鮮でした。

人と意見を出し合う楽しさを
知れました。

とても楽しく交流も広がった
ため、このような場をもっと
企画してほしいです。